

ゼパニヤ書

第一章 アモンの子ユダの王ヨシヤの世にゼパニヤに臨めるエホバの言、ゼパニヤはクシの子クシはゲダリアの子ゲダリアはアマリヤの子アマリヤはヒゼキヤの子なりニエホバ言たまふわれ地の面よりすべての物をはらひのぞかんニわれ人と獣畜をほろぼし空の鳥海の魚および躑躅になる者と悪人とを滅さん我かならず地の面より人をほろぼし絶んエホバこれを言ふ四我ユダとエルサレムの一切の居民との上に手を伸ん我この處よりの漏のこれるバルを絶ちケマリムの名を祭司と與に絶ち五また屋上にて天の衆軍を拜む者エホバに誓を立てて拜みながらも亦おのれの王を指て誓ふことをする者、エホバに侍り離る者エホバを求めず尋ねざる者を絶ん七汝主エホバの前に黙せよそはエホバの日近づきエホバすでに犠牲を備へその招べき者をさだめ給ひたればなりハエホバの犠牲の日に我ももろの牧伯と王の子等および凡て異邦の衣服を着る者を罰すべし九その日には我また凡て鬪をとびこえ強暴と詭譎をもて獲たる物をおのが主の家に満す者等を罰せん一〇エホバ曰たまはくその日には魚の門より號呼の聲おこり下邑より喚く聲おこり山々より大なる敗壞おこらんニマクテシの民よ汝ら叫べ其は商賣する民 悉くほろび銀を擔ぶ者 悉く絶たればなりニその時はわれ燈をもちてエルサレムの中を尋ねん而して滓の上に居着

て心の中にエホバは福をもなさず災をもなさずといふものを罰すべし三かれらの財寶は掠められ彼らの家は荒果んかれら家を造るともその中に住ことを得ず 葡萄を植るともその葡萄酒を飲ことを得ざるべし四エホバの大なる日近づけり近づきて速かに来る 聽よ是エホバの日なるぞ 彼處に勇士のいたく叫ぶありニ五その日は忿怒の日 患難および痛苦の日 荒かつ亡ぶるの日 黒暗またをぐらき日 濃き雲および黒雲の日 六 瓶をふき鯨聲をつくり堅き城を攻め高き櫓を攻るの日なり七 われ人々に患難を蒙らせて盲者のごとくに惑ひあるかしめん 彼らエホバにむかひて罪を犯したればなり 彼らの血は流されて塵のごとくになり 彼らの肉は捨られて糞土のごとくなるべし八 かれらの銀も金もエホバの烈き怒の日には彼らを救ふことあたはず 全地その嫉妬の火に吞るべし 即ちエホバ地の民をことごとく滅したまはん 其事まことに速なるべし

第二章 汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内に省みよ 二 夫日は糠粃の如く過ぎさる 然ば詔言のいまだ行はれざる先エホバの烈き怒のいまだ汝等に臨まざる先エホバの忿怒の日のいまだ汝等にきたらざるさきに自ら省みるべし三 すべてエホバの律法を行ふこの地の遜るものよ 汝等エホバを求め公義を求め謙遜を求めよ 然すれば汝等エホバの忿怒の日に或は匿さることあらん四 夫ガザは棄られアシケロンは荒はてアシドトは白晝に逐はられエクロンは拔さるるべし五 海邊に住る者およびケレテの國民は

禍なるかなベリシテ人の國カナンよエホバの言なんぢらを攻む我なんぢを滅して住者なきに至らしむべし六海邊は必ず牧場となり牧者の洞および羊の牢そこに在ん七此地はユダの家の殘餘れる者に歸せん彼ら其處にて草飼ひ暮に至ればアシケロンの家に臥んそは彼らの神エホバかれらを顧みその俘囚を歸したまふべければなり八我すでにモアブの嘲弄とアンモンの子孫の罵言を聞けり彼らはわが民を嘲り自ら誇りて之が境界を侵せしなり九是故に萬軍のエホバ、イスラエルの神言たまふ我は活く必ずモアブはソドムのごとくになりアンモンの子孫はゴモラのごとくにならん是は共に尊麻の蔓延る處となり鹽坑の地となりて長久に荒はつべし我民の遺れる者かれらを掠めわが國民の餘されたる者かれらを獲ん一〇この事の彼らに臨むはその傲慢による即ち彼ら萬軍のエホバの民を嘲りて自ら誇りたればなり二エホバは彼等に對ひては畏ろしくましまし地の諸の神や饑し滅したまふなり諸の國の民おのおのその處より出てエホバを拜まん三エテオピア人よ汝等もまたわが劍にかかりて殺さる四エホバ北に手を伸てアッスリヤを滅したまはん亦二ネベを荒して荒野のごとき旱地となしたまはん一四而して畜の群もろもろの類の生物その中に伏し羈鷓鷯および刺猯其柱の頂に住み囀る者の聲窓の内にきこえ荒落たる物鬪の上に積り香柏の板の細工露顯になるべし五是邑は驕り傲ぶりて安泰に立をり唯我あり我の外には誰もなしと心の中に言

つつありし者なるが斯も荒はてて畜獸の臥す處となる者かな此を過る者はみな嘶きて手をふるはん第三章一此暴虐を行ふ悖りかつ汚れたる邑は禍なるかな二是は聲を聴いれず教晦を承ずエホバに依頼まずおのれの神に近よらず三その中にをる牧伯等は吼る獅子の如くその審士は明旦までに何を遺さざる夜求食する狼のごとし四その預言者は傲りかつ詐る人なりその祭司は聖物を汚し律法を破ることをなせり五その中にいますエホバは義くして不義を行なひたまはず朝な朝な己の公義を顯して缺ることなし然るに不義なる者は恥を知ず六我國々の民を滅したればその櫓は凡て荒たり我これが街を荒涼れしめたれば往來する者なしその邑々は滅びて人なく住む者なきに至れり七われ前に言り汝ただ我を畏れまた警戒を受べし然らばその住家は我が凡て之につきて定めたる所の如くに滅されざるべしと然るに彼等は夙に起て己の一切の行状を壞れり八エホバ曰たまふ是ゆゑに汝らわが起て獲物をする日いたるまで我を俟て我もろもろの民を集へ諸の國を聚めてわが憤恨とわが烈き忿怒を盡くその上にそそがんと思ひ定む全地はわが嫉妬の火に焼ほるばさるべし九その時われ國々の民に清き唇をあて彼らをして凡てエホバの名を呼しめ心にあはせて之につかへしめん一〇わが散せし者等の女即ち我を拜む者エテオピアの河々の彼旁よりもきたりて我に禮ものをささぐべし二その日には汝われに對てをかしきたりし諸の行爲をもて

羞を得ことなかるべしその時には我なんぢの中より高ぶり樂
む者等を除けば汝かさねてわが聖山にて傲り高ぶることな
ればなりニわれ柔和にして貧き民をなんぢの中にのこさん彼
らはエホバの名に依頼むべしニイスラエルの遣れる者は惡を
行はず 謊をいはず その口のうちには詐偽の舌なし彼らは
草食ひ臥やすまん之を懼れしむる者なかるべしニ四 シオン
の女よ歡喜の聲を擧よイスラエルよ樂み呼はれエルサレムの女よ
心のかぎり喜び樂めニ五 エホバすでに汝の鞫を止め汝の敵を逐
はらひたまへりイスラエルの王エホバ汝の中にいます 汝はか
さねて災禍にあふことあらじニ六 その日にはエルサレムに向ひ
て言あらん 懼るるなかれシオンよ 汝の手をしなえ垂るるな
かれニ七 なんぢの神エホバなんぢの中にいます 彼は拯救を施す
勇士なり 彼なんぢのために喜び樂み愛の餘りに黙し 汝のため
に喜びて呼はりたまふニ八 われ節會のことにつきて憂ふるもの
を集めん 彼等は汝より出でて者なり 恥辱かれらに蒙むること
重負のごとしニ九 視よその時われ汝を處遇る者を盡く處置し
足蹙たるものを救ひ逐はなれたる者を集め 彼らをして其
羞辱を蒙りし一切の國にて稱譽を得させ名を得させしニ〇そ
の時われ汝らを携へその時われ汝らを集むべし 我なんぢらの
目の前において 汝らの俘囚をかへし 汝らをして地上の萬國に名
を得させ稱譽を得させし エホバこれを言ふ